

飯豊町農村未来塾第2回 20251127

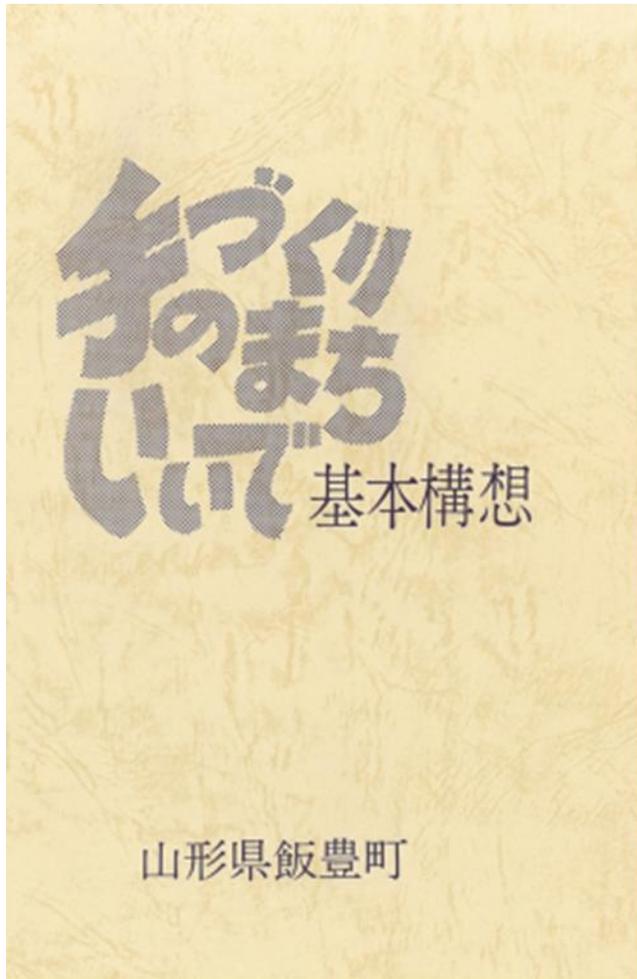
民家活用と住民参加による
地域づくりを現場で学び交流する

飯豊町のまちむづくりの歴史と
未来への責任と希望

糸長浩司

一般社団法人いいで農村未来研究所理事長
NPO法人エコロジー・アーキスケープ理事長
元日本大学教授

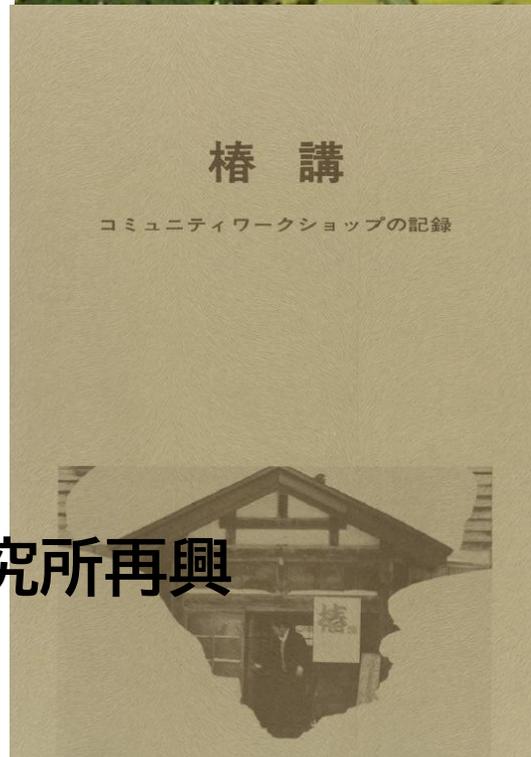
飯豊町の農村計画 半世紀を超える住民参加によるむらまちづくりの歴史



1974年 第一次飯豊町総合計画 120人委員会（住民参加のまちづくり始動）
1990年代 飯豊農村計画研究所による農村計画講座
2012年 農村計画学会むらづくり最優秀賞 青木志郎教授、後藤幸平町長

飯豊町1970年～農村計画の歴史

- ①1970年～1983年
日本の住民参加型農村計画の始動期
- ②1984年～2001年
地区別土地利用計画
景観環境保全
農村計画研究所による
域学連携の本格期
- ③2002年～2017年
環境と経済の好循環
グリーンツーリズム
バイオエネルギー
都市農村交流の本格期
- ④2018年～
自治体SDGsと農村計画研究所再興
いいで農村未来研究所発足
豪雨災害調査と復興



地区区分図



図 2-1-1-3(上) 飯豊町の大字ベースの9地区

土地利用計画区分図

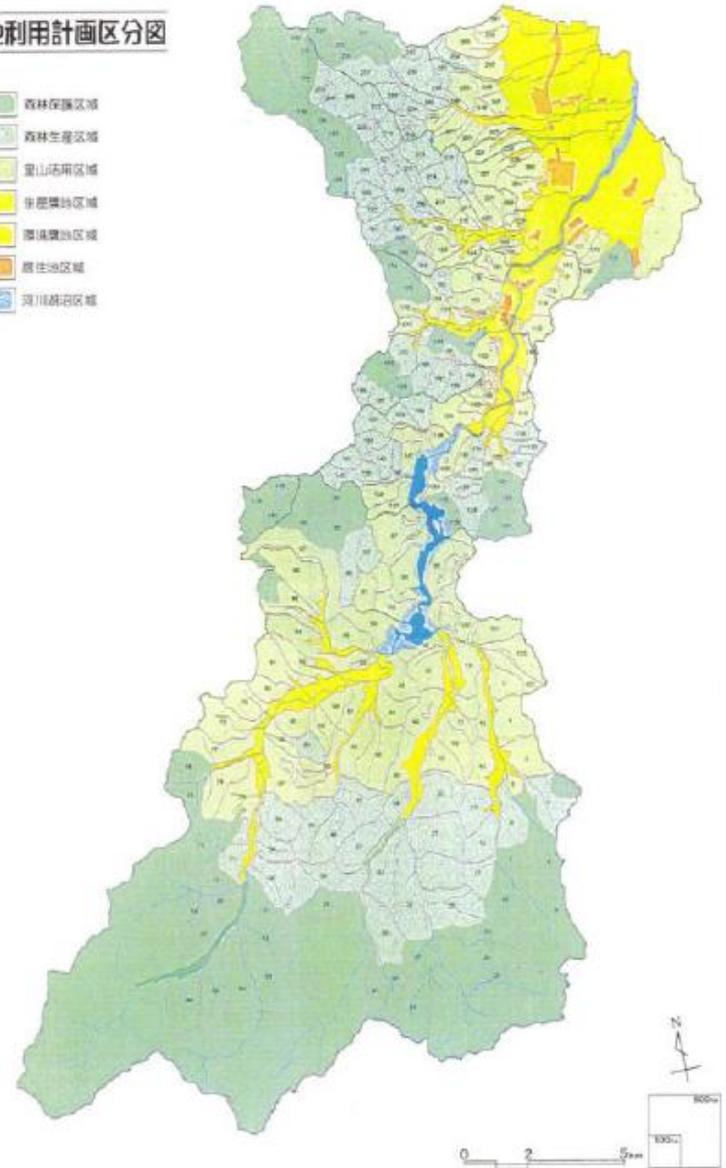


図 2-1-1-4(右) 飯豊町の土地利用マスタープラン

飯豊町の地区区分図及び地区別土地利用マスタープラン

第5次飯豊町総合計画

2021年度～

中津川地区別計画抜粋

【地区の土地利用の基本的な考え方】

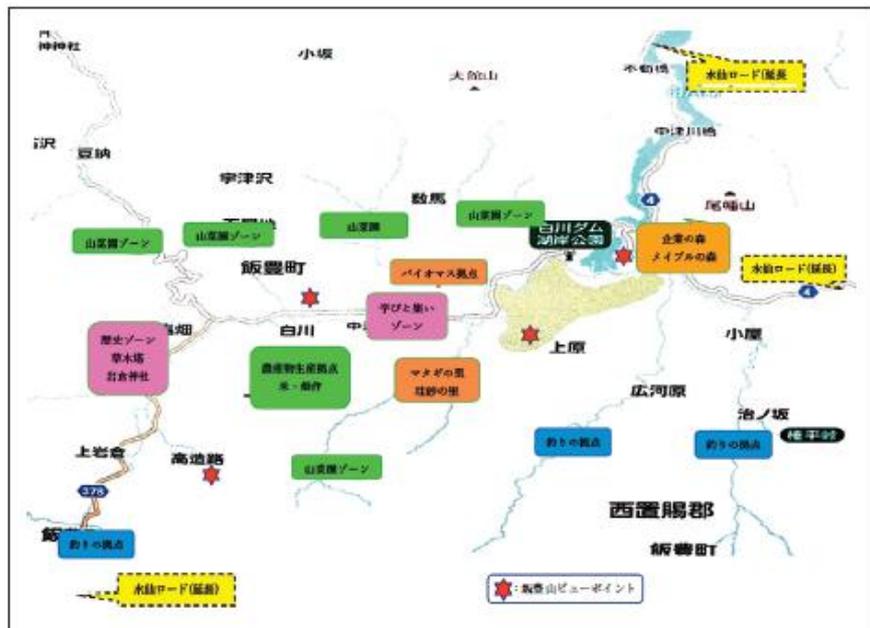
中津川地区は、町中心部から20km離れ、主要地方道路米沢飯豊線（白川ダム道路、菅沼峠）と、冬季閉鎖となるが林道飯豊桧枝岐線、九才峠が地区外へ通じる道路であり、玄関となっています。山間地・豪雪地特有の共同共存の豊かな文化があるものの、災害等で孤立化も懸念される地域となっています。

山間地特有の気候と豊富な雪や飯豊連峰を水源とする清流は、豊かな農林水産物を生み出し、農業と林業、そして観光業へと発展してまいりました。

近年、少子高齢化が進み、地区の産業（農業、林業）の担い手が減少する中で、山林や農地の利用について、維持し守るためには、ゾーニングが必要となってきました。また、伝統ある地域資源を観光資源として生かす取り組みも重要であり、ゾーン・拠点づくりも必要です。

将来にわたり、中津川地域の暮らしを守り、自然環境を守るために、行政と協働でしっかりした土地利用計画を策定し、活動の具体化を図っていきます。

【土地利用ゾーニング】



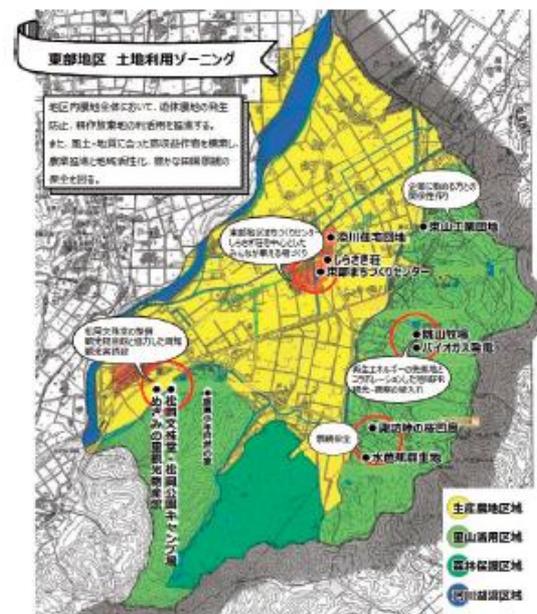
東部地区別計画抜粋

アクションプラン②	実施時期	実施主体
添川温泉祭りのテーマ付け・意義を再考し、例として東部地区内の神社とのコラボレーションによる獅子舞の競演、平灯の復活など、地域外からも集客を生む祭りを地域全体で作り上げるにより、地域の活力を再興します。	令和3～5年度	地区長会 添川祭実行委員会
アクションプラン③	実施時期	実施主体
東部地区の地域資源、住環境、イベント等を発信することのできる場をSNS等で立ち上げ、継続的な情報発信を行います。	令和3～5年度	地区長会

【土地利用の考え方】

（かつて作成した「東部土地利用計画」（第3次総合計画）を基本とした田園景観の保全を核とした土地利用計画を、住民の合意を形成しながら進める。）

【土地利用ゾーニング】



生き残り？
公平・分配
社会経済変革

貧富拡大
南北格差
智の西洋化
都市スラム

人間の世界
自然概念の創造
科学技術対象としての
地球

人類非常事態

地球との関係性の
再発見・再創造

生態系破壊
自然の物質代謝の亀裂
パンデミック
生態系サービス限界
温暖化・海面上昇
気候非常事態
台風・豪雨・洪水

やりたい放題
無限の開発
無限の欲望
無限の収奪
科学技術の暴走
巨大都市
資本の加速暴走
人新世
資本新生
生物圏 < 技術圏

地震
大陸移動



地球

人類を「地球に降り立たせる
(Down to earth)」
ブルーノ・ラトウール
「テレストリアル」(生命圏・地上・クリティカルゾーン・地球)への再依存

©KOJI ITONAGA

小流域での災害・被害 小白川流域

★ 被災状況 2022年9月2日撮影
ドローン写真は飯豊町役場企画課川村俊貴さん。





図3 2022年10月7日の調査研究チームの現地調査 [萩生川](#) [新沼橋](#)



図4 2022年11月13日の研究所第一回塾の翌日の塾参加者の現地調査 [萩生川](#) [新沼橋](#)

いいで農村未来研究所
第2回まちむらづくり塾

日時：令和4年12月18日（日）13:00～15:00
会場：東部地区公民館（飯豊町大字添川2955）

★ 日時：令和4年12月18日（日）13:00～15:00
★ 会場：東部地区公民館（飯豊町大字添川2955）

★ 入場 無料

8月大雨災害から4カ月の時間が過ぎました。
森林から河川、農地の復旧について、農村に合った新たな視点で一緒に考えてみませんか。

テーマ * 内容に変更がある場合があります。その際はご了承ください
農村資源を活かし、自然と向き合うSDGsの暮らし
8月大雨災害からの自然と寄り添う河川・農地・森林復旧に向けて

1. 砂防・治山関係施設の整備について
石川芳治 様（東京農工大学名誉教授、元砂防学会会長）
2. 河川沿いの農地の復旧の考え方
山路永司 様（東京大学名誉教授、元農村計画学会会長）
3. 森林復旧の課題
大塚生美 様（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 東北支所 研究専門員）
4. 新潟災害との比較
鈴木孝男 様（新潟食料農業大学 食料産業学部 教授）
5. 自然と寄り添う復旧に向けて～SDGs型復旧
糸長浩司（いいで農村未来研究所 所長）



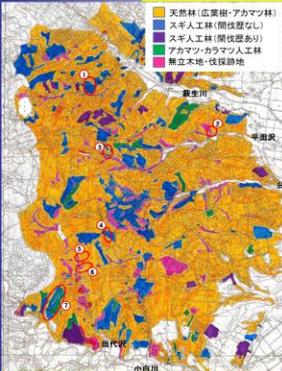
2022年豪雨災害調査と報告会（塾）の開催

飯豊町2022年8月豪雨災害からの学び 2023年8月
飯豊町いいで農村みらい研究所
2022年豪雨災害調査研究チームの報告 no1

飯豊町いいで農村未来研究所は2022年7月に発足し、直後の豪雨災害を受け、研究所及びボランティアで参加していた研究者と調査研究チームを9月に設置し調査研究を進めてきています。調査研究チームの構成は下記です。
アンダーラインは研究所の理事・運営員

- 幹事会 糸長浩司(所長)、斎尾直子(副理事長)、館石修(副所長)、事務局(後藤洋、川村)
 - 調査研究テーマ別担当者
 - A. 小流域災害(森林、河川)：石川芳治(元砂防学会長、農工大)、林田光祐(林業、山大)、本山功(地質、山大)、岩田尚能(地質、山大)、大塚生美(林政、森林総研)、大澤啓司(緑地、日大)、糸長浩司
 - B. 農地・農業用施設災害：山路永司(元農村計画学会会長、東大)、糸長浩司
 - C. 住宅地災害(道路、インフラ、住宅、屋敷林、公共施設)：斎尾直子(副理事長、建築、東工大)、鈴木孝男(建築、新潟食料農業大)、糸長浩司
 - D. 避難行動など防災活動：井原満明(運営委員、地域計画研究所)、糸長浩司
 - E. 伝統散居の免浸機能(伝統散居の石場建て構法と屋敷林による耐浸水機能評価) 伊藤賢一(飯豊町住民、観光協会専務理事)、糸長浩司
- ★写真・動画の町民からの収集と提供 小林志津可

A. 小流域災害(森林と河川の被害と対策の方向)



小白川流域の宇津峠層は砂岩で風化しにくく、そのため表土が薄く、樹木の根が浅い傾向。広葉樹より針葉樹の方が根が浅い傾向が知られるが、小白川流域は樹種の違いではなく地質学的要因で樹木全体の根が浅い可能性がある。大雨により土壌は容易に流失し、樹木も根こそぎ流される。舟越付近の斜面崩壊・土石流跡の谷底は土壌が失われて地層(宇津峠層の砂岩)が露出している。(写真1)

舟越付近の表層崩壊・土石流と大量の流木。中央下に北向橋(8月7日14:00頃空撮) 本山功

萩生川流域は泥岩・凝灰岩からなる沼沢層で、亀裂が多く風化しやすく、粘土化しやすい。典型的な第三紀層地すべり地帯に相当し、風化した凝灰岩などが地すべり粘土を形成して地すべりが多発する。多数の表層崩壊が生じたが、顕著な地すべりの活動が認められなかったのは、短時間の雨量で地中に十分に浸透する前に雨水が流出したからである。本山

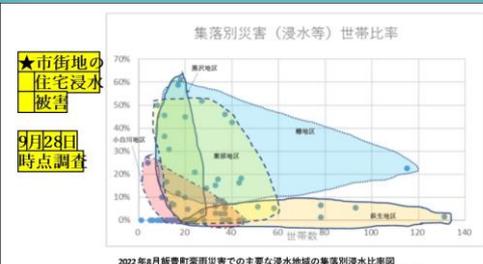


写真2~4は萩生川上流の崩落地(飯豊町地域整備課及び糸長撮影)



萩生川上流新沼橋付近に合流する右支川から多量の土砂と流木が合流点付近に多量に堆積(写真2~5)、本川を流下した土砂や流木が下流に影響。対策①合流点付近の堆積土砂・流木の除去。②合流点に流出する可能性のある土砂と流木を堆積・捕捉するための遊砂地(流木止め)の整備を。(石川)

飯豊町いいで農村みらい研究所 2022年豪雨災害調査研究チームの報告 no3
C. 住宅地災害、E. 伝統散居の免浸機能、D. 避難行動



櫛は住宅浸水率は高低がある。散居は比較的浸水住宅率は低い。黒沢、東部は浸水住宅率は高い傾向。散居の住宅での浸水もある。黒沢では水田が西から東に微傾斜であり、田んぼからの溢水による浸水が。横軸は高層の世帯数、縦軸は高層の浸水率

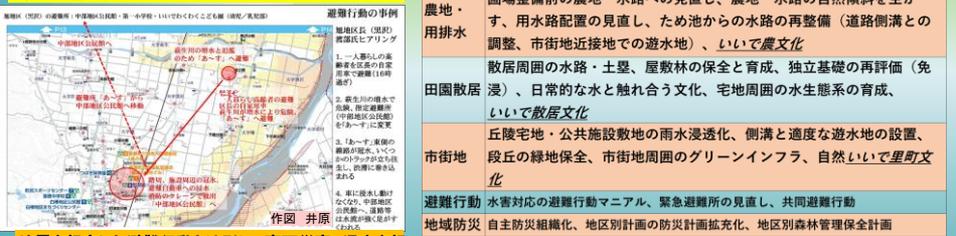


櫛地区の西部の宅地での雨水浸透による防災へ

散居の伝統住宅での免浸



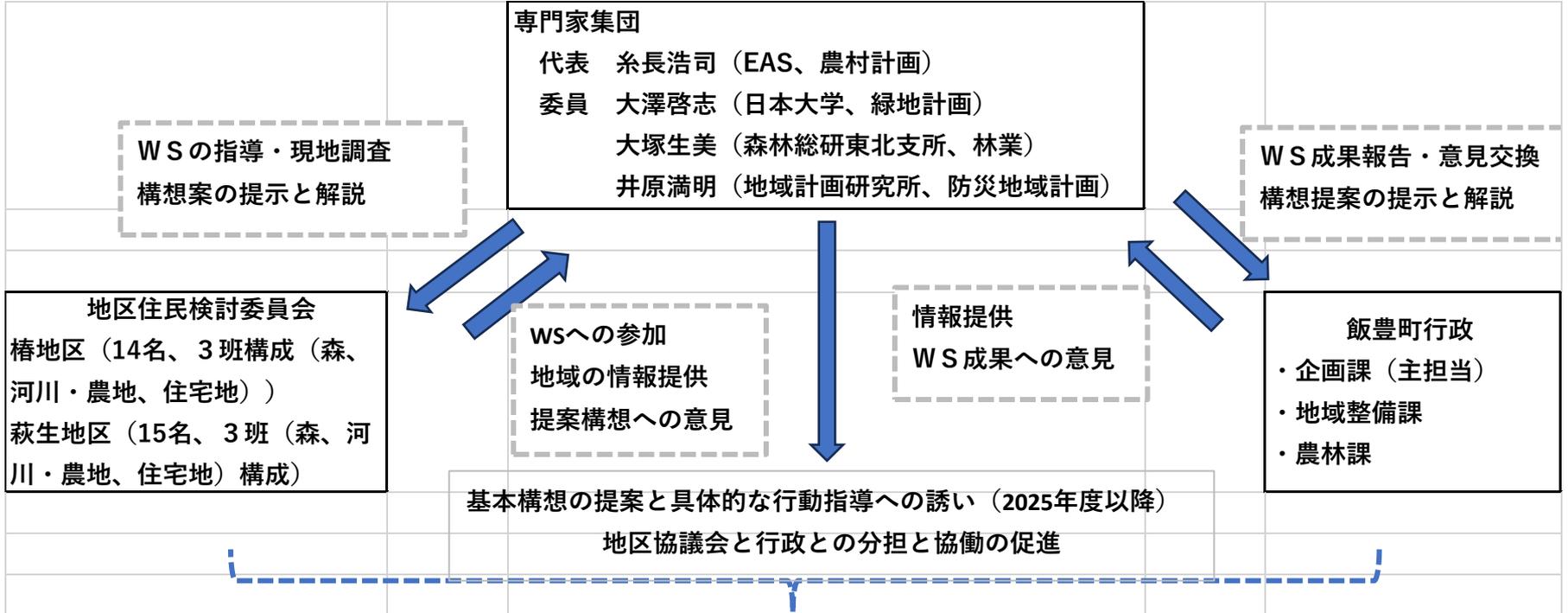
散居の古い民家は伝統的な独立基礎で、浸水は床下に浸透。置敷林の土塁が堤防となる。この仕組みを今後は生かす。



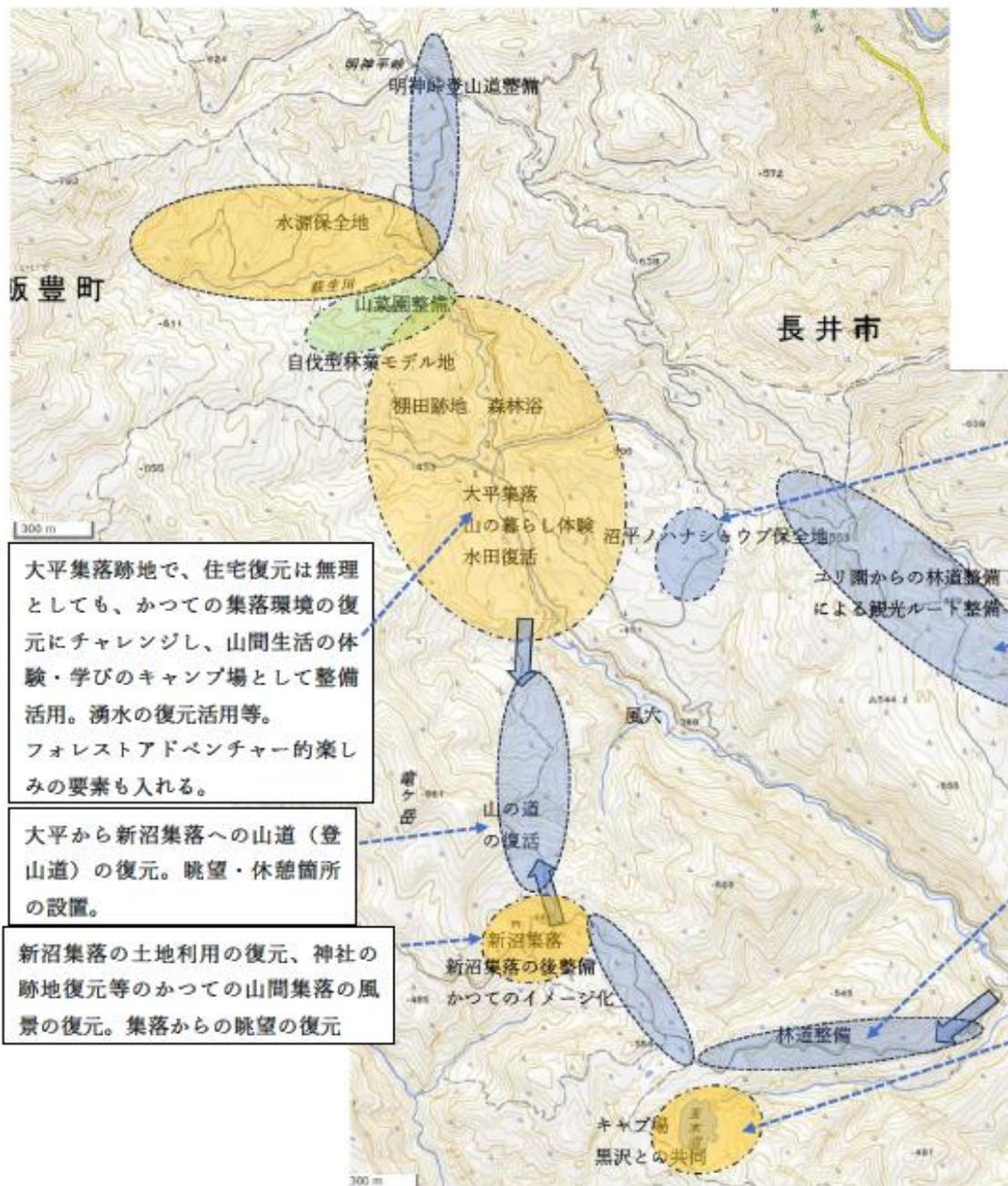
地震を想定した避難行動とは別に、豪雨災害、浸水を想定した避難行動と避難場所の選定、緊急時の垂直避難行動を。井原

項目	いいでSDGs型復旧の方向性
基本	自然(森・川・里)と人の関係性を修復し、自然による修復解決(NbS)、持続可能ないいで文化に生まる
山	森林知(地すべり、拡大造林の歴史、所有状況、かつての土地利用・集落の歴史)、林班単位での生態系保全と運動した施業と保安林の管理、森林譲与活用、森林(自然)との関係性の再構築、いいで森文
河川	60年前の川への回帰、支川と本川の合流点の遊水・遊砂地、地域の河川環境文化の再生、河川沿いの農地利用の方法、多自然河川・緩い土手、沈下橋・流れ橋、いいで川文化
農地・用排水	圃場整備前の農地・水路への見直し、農地・水路の自然傾斜を生かす、用水路配置の見直し、ため池からの水路の再整備(道路側溝との調整、市街地近接地での遊水地)、いいで農文化
田園散居	散居周囲の水路・土塁、屋敷林の保全と育成、独立基礎の再評価(免浸)、日常的な水と触れ合う文化、宅地周囲の水生態系の育成、いいで散居文化
市街地	丘陵宅地・公共施設敷地の雨水浸透化、側溝と適度な遊水地の設置、段丘の緑地保全、市街地周囲のグリーンインフラ、自然いいで里町文化
避難行動	水害対応の避難行動マニュアル、緊急避難所の見直し、共同避難行動
地域防災	自主防災組織化、地区別計画の防災計画拡充化、地区別森林管理保全計画

飯豊の魅力を生かしたSDGs型復旧をめざして 森と川への気づき、田園文化を育てつつ防災を 糸長



**2024年度
小流域での住民参画による防災と快適環境計画づくりに関する研究
推進体制図**



萩生の森林エリアの保全と活用構想

大平に向かう手前の旧水田跡地、かつては沼地の沼平をノハナシキウブのへ保全・観察活動の拠点として整備する。まずは、観察調査が必至。

ゆり園からの柳沢林道を活用し、旧大平集落までの移動を、常時可能とする。途中に田園散居集落の眺望のできる見晴らし台等を設置する。

新沼橋から玉木沼への林道整備。軽自動車が無理であれば、バイクで管理に行ける林道、山道として整備。

玉木沼の管理、キャンプ場として整備。黒沢地区との共同整備も検討必要

大平集落跡地で、住宅復元は無理としても、かつての集落環境の復元にチャレンジし、山間生活の体験・学びのキャンプ場として整備活用。湧水の復元活用等。フォレストアドベンチャー的楽しみの要素も入れる。

大平から新沼集落への山道（登山道）の復元。眺望・休憩箇所を設置。

新沼集落の土地利用の復元、神社の跡地復元等のかつての山間集落の風景の復元。集落からの眺望の復元

萩生上流、旧大平集落、旧新沼集落の森林活用構想



大正2年の
新沼・大平・玉木沼

新沼集落で暮らしていた渡部岩次さん所有の写真からのイメージスケッチ



菰生川上流部の旧山間集落の価値再評価

項目	いいでSDGs型復旧の方向性
基本	自然（森・川・里）と人の関係性を修復し、自然による修復解決（NbS）、持続可能な <u>いいで文化に生きる</u>
山	森林知（地すべり、拡大造林の歴史、所有状況、かつての土地利用・集落の歴史）、林班単位での生態系保全と連動した施業と保安林の管理、森林贈与税活用、森林（自然）との関係性の再構築、 <u>いいで森文化</u>
川	60年前の川への回帰、支川と本川の合流点の遊水・遊砂地、地域の河川環境文化の再生、河川沿いの農地利用の方法、多自然河川・緩い土手、沈下橋・流れ橋、 <u>いいで川文化</u>
農地・用排水	圃場整備前の農地・水路への見直し、農地・水路の自然傾斜を生かす、用水路配置の見直し、ため池からの水路の再整備（道路側溝との調整、市街地近接地での遊水地）、 <u>いいで農文化</u>
田園散居	散居周囲の水路・土塁、屋敷林の保全と育成、独立基礎の再評価（免浸）、日常的な水と触れ合う文化、宅地周囲の水生態系の育成、 <u>いいで散居文化</u>
市街地	丘陵宅地・公共施設敷地の雨水浸透化、側溝と適度な遊水地の設置、段丘の緑地保全、市街地周囲のグリーンインフラ、自然 <u>いいで里町文化</u>
避難行動	水害対応の避難行動マニュアル、緊急避難所の見直し、共同避難行動
地域防災	自主防災組織化、地区別計画の防災拡充化、地区別自然関係性計画（地区別NbS）

itonagakoji@outlook.jp

自然との関係の再構築での解決
いいで田園文化 に生きる

森を維持し楽しむ
いいで森文化 に生きる

川を守り親しみ
いいで川文化 に生きる

新鮮で美味しさを作り食べる
いいで農文化 に生きる

みどりと水と共存した
いいで散居文化 に生きる

自然をベースとした暮らし
いいで里町文化 に生きる

地域の自然を活用した安心した
いいで自然安心文化 に生きる

農村計画研究所（1985年～）の再興

飯豊町 いいで農村未来研究所 2022年7月～2024年8月

一般社団法人 いいで農村未来研究所 2024年8月

飯豊町立 いいで農村未来研究所

機能

教育

- ・まちむらづくり塾
- ・人づくり
- ・町民ニーズへの対応
- ・農村の意義と魅力の発信
- ・農村現場実践的学び
- ・農村SDGsの学び（子どもから）

研究

- ・農村計画アーカイブ
- ・農村計画の実践知の発信と交流
- ・調査研究の実施
- ・研究所年報の発信

コンサルティング

- ・地区別計画の推進支援
- ・SDGs総合計画推進支援
- ・まちづくりカフェ
- ・農村資源を生かしたもの・エネルギーづくり助言

目指すもの

★飯豊町における住民参画のまちむらづくりの歴史を継承し、農村の価値を未来につなげるために、まちむらづくりの担い手を育成する。

★飯豊町の環境・社会・経済の3側面からの発展に貢献し、広く町外の人々や研究者との交流を促進する。

★地球環境危機の課題を抱える今、農村での自然と共生・共存した暮らし、農村資源の持続的な管理と活用による魅力的な暮らしの知恵と実践を発信する。

★農村の伝統的な知恵を再考・再興・活用し、さらに新しい課題に関する知と実践手法について学び考え、実践していく機会を提供する。

運営方針

- ◆組織の趣旨に賛同する多くの町民、町外市民との協働で活動する。
- ◆多様な情報の欲しい人、まちづくり相談をしたい人が自由に集える場づくりをする。
- ◆環境問題、農村計画や地域デザインのための資料が収蔵され誰でも利用できる。
- ◆各分野の専門的なアドバイザーがいる。

参加無料

農村未来塾

空き家・空き地を蘇らせ まちむらの再生を！！



日時 令和7年2月14日(金)
開場12:30 13:00～17:00
2月15日(土) 町内視察

日程
2月14日(金)
【講演】
1. 官民連携からの法改正へ。
阿部 俊夫 NPO法人つるおかランド・バンク理事長
2. 地域の居場所「いっぶくあが家」でみんな元気！
黒澤 哲人 飯豊町萩生地区「いっぶくあが家」会長
3. 空き家、農地を活用した自治力による地域おこし
豊重 哲郎 鹿兒島県鹿屋市「やねだん」代表
4. 関係人口創出デザインとアクション
野田 満 農村計画学会、近畿大学講師
5. 農村空家の多面的活用の可能性
山本 幸子 農村計画委員会、筑波大学准教授
【パネルディスカッション】
コーディネーター／糸長 浩司 いいで農村未来研究所 理事長
登壇者／講演者一同
【まとめ】
井原 満明 地域計画研究所、いいで農村未来研究所

次の事項を記載しメールまたは右記の二次元コードを読み取りWEBフォームより申し込みしてください。
氏名・住所・電話番号・所属・専門分野(あれば)・参加の方法(開場・オンライン)・参加日(両日・各日) 送付先メールアドレス:iidenouson@gmail.com
【お問合せ先】



飯豊町役場企画課総合政策室
☎0238-87-0521 mail: i-seisaku@town.iide.yamagata.jp

主催 山形県飯豊町

共催 農村計画学会(農村計画セミナー)
後援 日本建築学会農村計画委員会
協力 一般社団法人いいで農村未来研究所

第2回 農村未来塾

令和7年11月27日(木)-28日(金) 開催

民家活用と住民参加による
地域づくりを
現場で学び
交流する

第2回の農村未来塾の開催です。今回は、農村計画学会との研究交流を兼ねて企画しました。飯豊町は、昭和四十五年頃から住民と行政、研究者の共同でまちむらづくりを進めてきた農村計画の老舗といえる地域です。
住民参加の手づくりのまちの歴史と今、住民主体による地域づくり、空き家活用を現場で学ぶ機会となります。町民にとっては、全国の研究者の貴重な研究成果や手法を学ぶ機会になります。
町民、農村計画学会会員および農村計画の現場に関心のある人たちの交流の場にもなります。
ぜひ、ご参加ください。

日程 11月27日(木)

13:20 JR米坂線羽前椿駅 集合
※JR米坂線(今泉一坂町)は代行バス輸送です
椿地区から中津川地区へ移動

- ・農家民宿「庄太郎」見学
- ・中津川地区のむらづくり現場見学
- ・参加者からの講義と討議
- ・町民と参加者の交流会

※日程は事情により変更になる場合があります

日程 11月28日(金)

8:30 中津川地区から移動

- ・2022年豪雨災害地の視察(車窓より)
- ・東部地区のまちづくり代表者の講話と意見交換
- ・空き家リフォーム住宅見学と施工工務店の方の講話
- ・空き家リフォームによる集落の居場所見学と地域リーダーの講話

めざまの里観光物産館にて昼食

14:00 鶴岡市へ送迎
(農村計画学会大会参加者のみ)
18:00 鶴岡市到着

申込締切

令和7年10月31日(金)

申込条件

- ・飯豊町までの交通費、宿泊費、交流会費等は自己負担です
- ・宿泊が必要な場合はご連絡ください。宿泊定員20名

宿泊場所

- ・農家民宿「庄太郎」
山形県西置賜郡飯豊町大字岩倉88
☎0238-77-2381
- ・白川温泉「白川荘」
山形県西置賜郡飯豊町大字数馬218-1
☎0238-77-2124

その他

11月29日(土)から開催される農村計画学会大会開催地の山形県鶴岡市までバス送迎(無料)いたします

申込・問合せ先

専用フォームよりお申し込みください。お問い合わせは下記電話番号またはメールでご連絡ください

飯豊町企画課
総合政策室
☎0238-87-0521
i-seisaku@town.iide.yamagata.jp



山間集落の暮らし聞き書きワークショップ 募集 山形県飯豊町



2025年1月16日(木)～18日(土) 2泊3日

- 16日 午後 赤湯駅集合
後 豪雪の中津川(飯豊山の麓集落)への移動、町の概要
古老等からの聞き書きワークショップ
夜塾 地域住民との懇親会 宿泊は民泊
- 17日 午前 中津川～飯豊町の現地調査(散居、バイオマス発電所等)、森生地区
午後 かつての山間集落の暮らしについて古老等からの聞き取りワークショップ
夜塾 地域住民との懇親会 宿泊は町内ホテル
- 18日 午前 森生散居の研修、移動後 赤湯駅にて解散

飯豊町のかつての山間集落の暮らし、文化を、大学生・大学院生が聞き書きをし、山間での暮らしと文化の楽しさと価値を発見してもらう。飯豊町の過去・今の魅力から飯豊町の未来を考える。

聞いて・質問し・見て⇒ 農村の魅力と未来を考え、書く。
提出されたレポートは飯豊町のまちおろしづくりに生かす。

募集人数 大学生・大学院生 6名
費用補助(交通費+宿泊費一部) 一人当たり 3万円

*大学生・大学院生以外の参加者は、募招簡とさせていただきます。下記にメールを送ってください。

募集期間 11月26日～12月18日 参加者確定 12月23日
申し込み記入内容

- ①氏名
- ②性別
- ③大学・大学院、学部学科名、学年
- ④居住地(都道府県・市町村)
- ⑤参加を希望する理由(100字程度)
- ⑥自己アピール(100字程度)

申し込み先 一社いいで農村未来研究所 事務局

iidenouson@town.iide.yamagata.jp

企画運営 一社いいで農村未来研究所(理事長 糸長浩司)

主催：飯豊町 企画運営：一般社団法人いいで農村未来研究所

「日本の山間集落の暮らし再発見」

Iide town Yamagata

昭和時代の山間集落空間・自然・暮らし・生業を
住民と再発見ワークショップ

◆ 2025.10.3[Fri]-5 [Sun] ◆ 2 nights, 3 days

山形県飯豊町の昭和時代の山間集落の空間・自然・暮らし・生業を、地元住民の皆さんと再現・再発見して、山間での暮らしと文化の魅力と価値を発見します。森林空間の利活用の歴史を学ぶことで、今後の豪雨災害対策に生かします。大学生たちと地元住民とが、飯豊町の山間地域の自然や結いの暮らしや文化の歴史を共同で体感し、より持続的な農山村を生かすための関係人口創出につなげます。

募集対象 大学生及び大学院生

募集定員 6名

募集期間 9月3日(水)～21日(日)まで

その他 参加者決定後にオンラインの打ち合わせを行います。日程は参加者決定の際に連絡します。

本事業に参加した方は、ワークショップ終了後にレポートを提出していただきます。

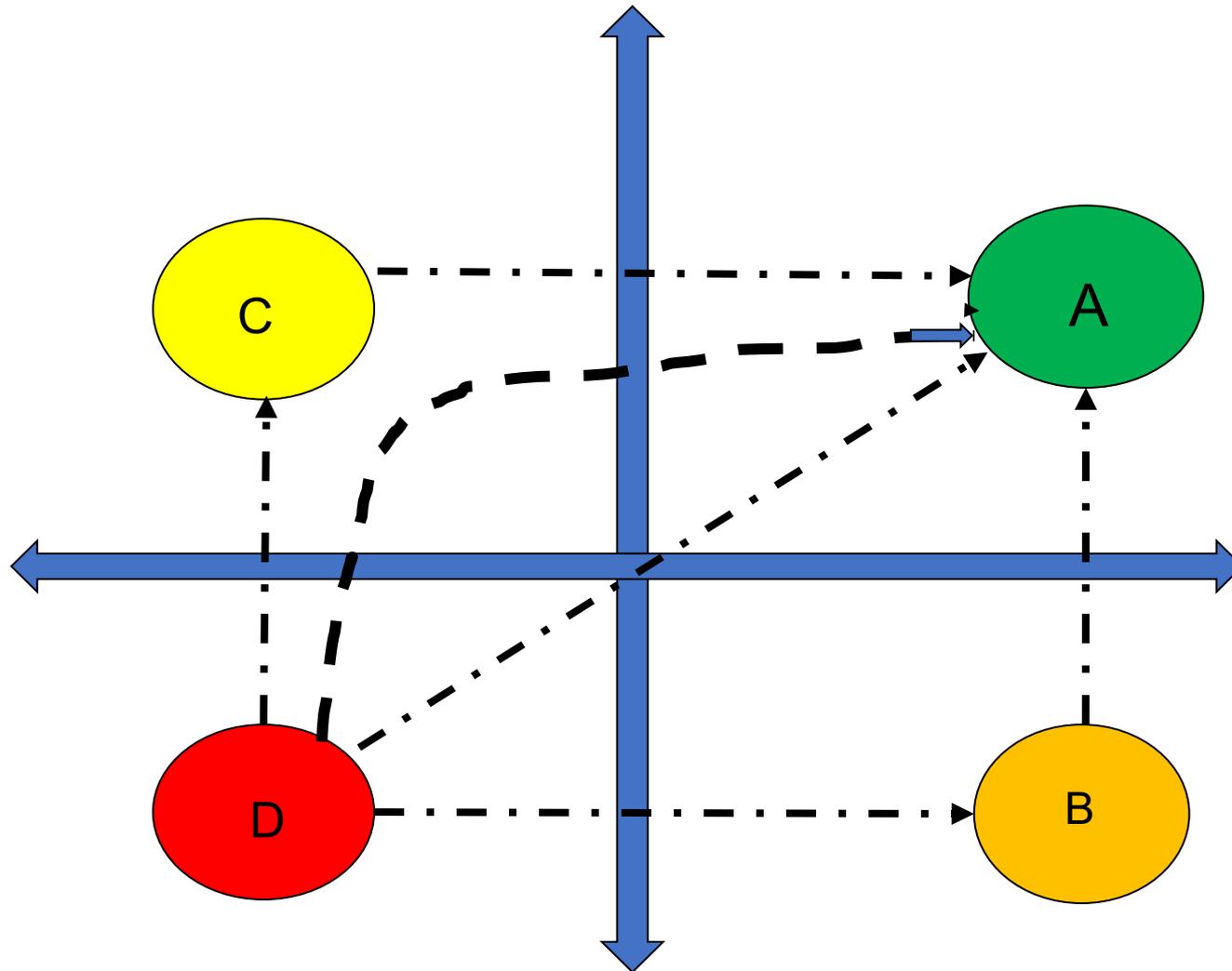


❗ 集合場所までの交通費(往復)及び第1日目、第2日目の宿泊費合計して、一人3万円までとはご負担の必要はありません。それ以外の超過分(交通費等)と食事代は各自ご負担いただきますのでご了解ください。

●行程及び申し込み方法等は裏面をご確認ください。

ローカル・地域での多元的な価値による社会・経済・ 環境・政治の成熟

専門家・寡頭政治に
よる決定



多様なステークホルダー！
関係者の参加・決定・協働

グローバルな社会・経済・環境・政治への一元価値に
よるコントロールの強化、徹底化